

一般向けドローン&ゴーグル 互換性情報

(DJI Goggles 3)

v1.0 2024.04



対応デバイスとファームウェアバージョンの要件	2
ファームウェア更新	2
リンク作業	3
機能の互換性情報	4

💡 ・この対応モデル情報は DJI™ Avata 2 には該当しません。DJI Avata 2 とゴーグルを併用する方法については、<https://www.dji.com/avata-2/downloads> にアクセスして、掲載されている内容をご確認ください。

対応デバイスとファームウェアバージョンの要件

以下の一般向けドローンは、DJI 製のゴーグルや送信機と併用することで、操作が簡単な一人称視点の飛行体験を提供します。

機体	対応ゴーグル	対応する遠隔操作デバイス
<ul style="list-style-type: none">• DJI Air 3 (v01.00.1200 以降)• DJI Mini 4 Pro (v01.00.0400 以降)	<ul style="list-style-type: none">• DJI Goggles 3 (v01.00.0100 以降)	<ul style="list-style-type: none">• DJI RC Motion 3 (v01.00.0100 以降)• DJI RC 2 (v02.02.0000 以降)• DJI RC-N2 DJI Air 3 と併用時： (v01.00.0700 以降) DJI Mini 4 Pro と併用時： (v01.01.0300 以降)

⚠️ ・上記の機体をゴーグルと併用する場合、飛行制御のための遠隔操作デバイスは 1 つのみサポートされます。

ファームウェア更新

初めて使用する前に、機体、ゴーグル、遠隔操作デバイスのファームウェアを最新のバージョンに更新してください。更新しない場合、デバイスをリンクできません。

1. 機体および元の送信機の更新

機体を元の送信機にリンクし、DJI Fly を起動します。画面上の指示に従ってファームウェアを更新してください。送信機が機体にリンクされていない場合はファームウェアを更新できませんのでご注意ください。インターネット接続が必要となります。

2. ゴーグルとモーションコントローラー（使用可能な場合）の更新

⚠️ ・干渉を避けるために、ゴーグルとモーションコントローラー（使用可能な場合）の更新中は、機体の電源がオフになっていることを確認してください。

ゴーグルとモーションコントローラー（使用可能な場合）の電源を入れ、ゴーグルの USB-C ポートをモバイル端末に接続します。それから DJI Fly を起動して **プロフィール > 機器管理** を選択します。該当のゴーグルを見つけます。 **ファームウェア更新** を選択して、画面上の指示に従ってファームウェアを更新します。更新中は、モバイル端末がインターネットに接続されていることを必ず確認してください。

💡 ・また、DJI Assistant 2（一般向けドローン用）ソフトウェアを使用して、パソコンでデバイスのファームウェアを個別に更新することもできます。

⚠️ ・タッチスクリーン非対応の送信機をゴーグルと機体で使用する場合は、モバイル端末の DJI Fly アプリを最新バージョンにアップデートしてください。

リンク作業

リンク前の準備：

1. 機体、ゴーグル、遠隔操作デバイス（モーションコントローラーまたは送信機）の電源を入れます。リンク作業を行う前に、機体、ゴーグル、遠隔操作デバイスの電源を入れます。リンクは、機器が機体から 0.5 m 以内にある状態で行ってください。デバイスが最新のファームウェアバージョンに更新され、十分なバッテリー残量があることを確認してください。

⚠ ・飛行中、機体は 1 台の送信機デバイスでのみ制御できます。機体が複数の遠隔操作デバイスとリンクされている場合には、リンク作業の前に他の遠隔操作デバイスの電源を切っておいてください。

2. ゴーグルメニューを開きます。**ステータス**を選択し、メニュー上部に表示されている機体モデルが正しいことを確認します。正しくない場合は、メニューの右上隅から**切り替え**を選択し、適切な機体を選択します。

DJI Fly アプリを使用したリンク作業（推奨）

アクティベーション後、ゴーグルをモバイル端末に接続した状態にします。モバイル端末から DJI Fly の**接続ガイド**をタップし、画面上の指示に従って機体と接続します。



ボタンを使用したリンク作業

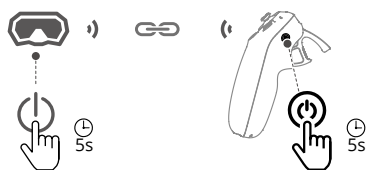
- ☀ ・機体、ゴーグル、モーションコントローラーを併用する場合は、以下の手順に従って、機体とゴーグルをリンクさせ、ゴーグルとモーションコントローラーをリンクさせてください。
 - ・機体、ゴーグル、送信機を併用する場合、機体と送信機はすでにリンクされているため、機体とゴーグルをリンクさせるだけでよいことに注意してください。
-

機体とゴーグルのリンク



- バッテリー残量 LED が順に点滅し始めるまで機体の電源ボタンを長押しします。
- ゴーグルの電源ボタンをゴーグルのピープ音が鳴り続け、バッテリー残量 LED が順番に点滅し始めるまで長押しします。
- リンクが完了すると、機体のバッテリー残量 LED がバッテリー残量を表示します。ゴーグルのピープ音が止まり、映像伝送が正常に表示できるようになります。

ゴーグルとモーションコントローラーのリンク



- ゴーグルの電源ボタンをゴーグルのピープ音が鳴り続け、バッテリー残量 LED が順番に点滅し始めるまで長押しします。
- ピープ音が鳴り続け、バッテリー残量 LED が順番に点滅し始めるまで、モーションコントローラーの電源ボタンを長押しします。
- リンク作業が終了すると、ゴーグルとモーションコントローラーのピープ音は止まり、バッテリー残量 LED がバッテリー残量が表示します。

機能の互換性情報

機体とゴーグルを併用する場合、機能の互換性情報については、次の表を参照してください。

- ⚠️ • QuickTransfer (クイック転送) を使用する際は、ゴーグルがモバイル端末に接続されていないことを確認してください。
- 飛行の安全確保のため、以下の組み合わせを正しく使用し、どちらかの組み合わせを使用する際は、もう一方の組み合わせで使用しているデバイスの電源がオフになっていることを確認してください。
組み合わせ 1: 機体 + ゴーグル + モーションコントローラー
組み合わせ 2: 機体 + ゴーグル + 送信機
 - 離陸前にゴーグルメニューで [機体信号ロストアクション] を設定しておいてください。次のシーンでは、機体は設定された機体信号ロストアクション (Return-to-Home、着陸、ホバリング) を自動的実行します。ゴーグルの画面上のプロンプトに注意してください。
組み合わせ 1: 機体 + ゴーグル + モーションコントローラー
組み合わせ 2: 機体 + ゴーグル + 送信機
組み合わせ 3: 機体 + ゴーグル + 送信機 + 送信機と機体が接続されていません。

機体	機能の互換性情報
DJI Air 3	<ol style="list-style-type: none"> 1. カメラの切り替え、ジンバルパラメーターの設定、マニュアルフォーカス、インテリジェント フライトモード（スマートショット、ウェイポイントフライト、マスターショット、クイックショットなど）には対応していません。 2. 以下の撮影モードにのみ対応しています。 <ul style="list-style-type: none"> • シングル撮影（12 MPの解像度） • 動画：ノーマル（4K/60fps、1080p/60fps） 3. 送信機を制御デバイスとして使用する場合： <ul style="list-style-type: none"> • ゴーグルのみ映像伝送を表示します。DJI Fly は、映像伝送を表示しません。 • 送信機は機体の録画機能を制御できますが、ゴーグルの録画機能を制御することはできません。ゴーグルのショートカットメニューから録画を有効にすると、機体とゴーグルが同時に録画できるようになります。 4. モーションコントローラーを制御デバイスとして使用する場合、ヘッドトラッキングがサポートされます。
DJI Mini 4 Pro	<ol style="list-style-type: none"> 1. パイロットモード、ジンバルパラメーターの設定、マニュアルフォーカス、インテリジェント フライトモード（スマートショット、ウェイポイントフライト、マスターショット、クイックショットなど）には対応していません。 2. 以下の撮影モードにのみ対応しています。 <ul style="list-style-type: none"> • シングル撮影（12 MPの解像度） • 動画：ノーマル（4K/60fps、1080p/60fps） 3. 送信機を制御デバイスとして使用する場合： <ul style="list-style-type: none"> • ゴーグルのみ映像伝送を表示します。DJI Fly は、映像伝送を表示しません。 • 送信機は機体の録画機能を制御できますが、ゴーグルの録画機能を制御することはできません。ゴーグルのショートカットメニューから録画を有効にすると、機体とゴーグルが同時に録画できるようになります。 4. モーションコントローラーを制御デバイスとして使用する場合、ヘッドトラッキングがサポートされます。

対応デバイスの使用方法の詳細については、対応製品のユーザーマニュアルをご覧ください。